

平成 30 年度 第 3 回瀬戸市地域公共交通会議 会議録

開催日時	平成 31 年 2 月 25 日（月） 午前 10 時から午前 11 時 30 分まで				
開催場所	パーティセと 4 階 マルチメディアルーム				
出席委員	20 名	欠席委員	3 名	傍聴者	6 名
会議概要	<p>1 議長あいさつ</p> <p>磯部でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>暖かくなってきました、瀬戸市ですとお雛さんも飾ってありまして、いろいろとお出掛けしやすい時期になってきました。</p> <p>交通のことを考えますと、お出掛けということが大事でありまして、どうしても必要な交通が何だとなってきましたと、通勤とか通学だとか毎日使いますので、どうしてもそちらに目が奪われがちです。ですが、我々人間は動き回ることが動物としての特性でありまして、家にじっとしていれば、これは病気になってしまいます。となると、こういう気分が良いときにフラッと出掛けたいものですが、どこまで出掛けるかというのが課題になります。歩ける範囲というのがありますが、もうちょっと遠くへ行きたいと思い、乗り物が欲しいときに、気軽に使える乗り物が存在しているか、していないかによって気分が健やかになるかどうかは変わってくるだろうなと思います。</p> <p>ですので、交通のことを考えますといつも乗り物のことばかり考えてしまうのですが、どういうときにどこへ行きたいかという話が大事で、そういうこともしっかり考えて交通システムを組んでいき、皆さんが健康な生活ができるようなものが大事だと思っています。そういう視点でもいろいろ検討したいと思っています。よろしくお願いいたします。</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 瀬戸市地域公共交通網形成計画（パブリックコメント案）について 別紙資料 1 に従って事務局から説明</p> <p>(質疑応答)</p> <p>(議長)</p> <p>前回から検討してきた瀬戸市地域公共交通網形成計画がまとまってきましたので、これからパブリックコメント、市民全体からの意見を聞く資料として用意させていただいたということでございます。これにつきまして皆様から何かご質問、ご意見がありましたらお受けいたします。いかがでしょうか。</p> <p>(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局)</p> <p>前回私のほうからいろいろ注文をつけさせていただき、またそれにご対応いただきましてありがとうございます。</p> <p>重ねて、助言をさせていただきます。これは計画を進める中での話になりますが、61 ページに全体のスケジュールが書いてありまして、その中に㊦の新たなモビリティ・移動支援システムの導入ということで、タクシー、自動走行技術等の活用、企業・関係団体との連携があります。2023 年まで研究を行い、その</p>				

後、中・長期計画の中で実施ということになっていますが、現状、皆様ご存じだと思いますが、自動運転走行技術というのはまだ実用化されておりません。レベル3がやっと何社かで実用化されたかなというような状況になっていまして、まだ技術的に確立されたのかというところである上に、運送事業におきましてはまだ法的整備が整っていない状況です。これは現在、国土交通省のほうで鋭意法的な整備をいろいろさせていただいているところです。こういう状況でありますので、これに関しては法的整備、また技術的な確立を見ながら進めていただくことになるのではないかと思いますので、その辺よろしく願いいたします。

あと、㊸の料金体系の見直し、こちらのほうは収支率を見ながらということで、収支率が良ければ割引を増やすとか回数券、定期券を出すという話だと思いますが、一方で、適正な費用負担というものもあると思います。安ければ良いという話ではなくて、利用者、市民の皆様にとれぐらいの費用を負担していただくのが適当かということも含めて、皆様で検討していただく必要があるのかなと思いますので、今後その辺の議論もお願いします。

最後にもう1点だけ、パブリックコメントに関する広報せとの記事資料ですが、ご意見をお寄せくださいということで左の下の方に記載がありまして、閲覧場所がいろいろあり、最後に市のホームページからもご覧いただけますということになっています。せっかくですのでアドレスを貼っていただいたほうが良いのかなと。市ホームページのトップページに目立つように出ていれば良いと思いますが、そうでなければなかなかたどり着くことができず途中で嫌になってやめてしまうケースが多いので、アドレスを貼っていただき直接ページに飛べるようにするとか、もしくはトップのところにバナーを貼っていただくとか、そういうことでできるだけ多くの人に見えていただける工夫をしていただくようお願いいたします。私からは以上です。

(議長)

どうもありがとうございます。事務局から何かございますか。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。㊸と㊹の部分につきましては、ご指導いただいたところを踏まえまして、今後皆様方にもご検討をいただきたいと思っております。

パブリックコメントの募集のところについては、できるだけ皆さんが見やすいようにホームページのほうも工夫をしたいと考えております。

(議長)

ホームページについて、訪問者数のカウンターがあると、何人の人が覗いたかはわかると思います。もしできればですが、ご検討ください。

他はいかがでしょうか。

(副議長)

私もこれまでいろいろと意見をさせていただきましたので、計画自体の修正とかそういう話ではないですが、確認という意味でのコメントをさせていただきます。

まず61ページに具体的な事業がいろいろ列挙されていまして、目標でいくと

①から③というところは何とか公共交通を維持、または改善していこうという部分になります。これがまずこれからの瀬戸市にとって、とても大事な点だと思いますが、この中で見直しですとか路線を変えるとか、いろいろな変化が生じてくると思います。一見良くなるわけですが、市民の皆様がそれを知らないと使えないですし、そういう意味では、そういった変化を市民の人たちがよく理解して知っているということがとても大事です。それがこの中でいくと④から⑦ぐらいまでだと思いますが、そこでいろいろな具体的な施策が書いてありますが、特に事業の中の①から⑯まではどちらかというと大まかに全体の意識を変えていくということですね。例えば我々が子どものころはバスを瀬戸市でもよく使って、当たり前のような乗り物でしたが、これから先、どんどん子どもたちはあまりバスに乗らなくなり、親が送り迎えしてしまうということもあるので、そういう意味では全体の意識を当たり前の自動車からなるべく公共交通という意識に変えていくということが大事。これは目に見えるような形で、具体的に成果が表れてこないかもしれませんが、全体の意識の醸成は大事です。

それからもっと大事なのは、その変化した路線網を具体的に知っていただいて、本当に乗ることに、行動変容を起こすということが必要になってきます。それが④や①のわかりやすい公共交通情報にあたりますが、ただ単にバスマップを作るとか時刻表を載せるのではなくて、本当に市民の人がわかりやすいというものをどんどん突き詰めて考えていただきたいと思います。その方法も、今までは紙媒体だけでバスマップや時刻表を出すという感じかもしれませんが、今の若い人たち、40とか50代以下の人たちはスマホをほぼ90%以上持っていて、紙媒体よりもそちらで物事を調べる人たちが本当に多いので、新しいシステムを含めていろいろ検討しながら進めていただきたい。じゃないと、若い人たちは何を見ればいいのか、という感じになってしまうので、その辺はしっかりやっていただきたいと思います。

それからもう少し言いますと、この前、運輸局で中部5県の市町村の評価委員会があって私も出ましたが、今いろいろな市町村でわかりやすい情報提供などについて、様々な取り組みがされています。それはいろいろな技術を使いながら、いろいろな地域でチャレンジしたり研究したりされているんですね。その中で、特に都会はすごい便利なものができていますが、地方になるとまだ昔ながらという状況があります。そうすると若い人とか、バスに乗っていない人たちも含めて、本当にバスに乗らなくなってしまうので、そういった新しい技術などに乗り遅れないようにするためにもそういうことはしっかりと進めていただき、他の地域に乗り遅れないようにしていただきたい。

また、そういう意味では、先ほど愛知運輸支局が言われましたが、自動運転というのも今はまだ試行錯誤の最中なのですが、これもいろいろな市町村がいろいろな企業と組んで取り組みをチャレンジされています。そういうところが突然うまくいくことになるかもしれないし、法規制も突然変わることがあり得るので、そのときに乗り遅れないようにしていただきたいと思います。

それから、もう1つは87ページの評価のところですが、これも中部5県の評価委員会でいろいろな市町村がこういう状況ですという話をされたのですが、そのときに収支率を評価指標に出して、運行内容を改善したら収支率が上がりましたと話されていました。しかし、よく見ると利用者数は減っている。つまり市民の利便性は下がっているのに収支率だけ見るとか、逆に利用者数は上がっているが、これはお金をかければいくらでも利用者数は上がるかもしれないのですが、実は収支率は下がっている。これでは、税金でいろいろなことを補填しなければ

いけないということになるので、そういう意味では利用者数も収支率もしっかり見ていただきたいです。こういった複数の指標があるということは良いことで、同時に見て、市民の利便性や満足度が下がっていないかを確認することも大事です。利便性や満足度はお金をかければいくらでも上がるかもしれませんが、それでは将来的にもたないで、持続可能なようにしっかり収支率を見ていって、いくらぐらい経費がかかる中でこれぐらいかなというところもこれから本当に大事になると思います。

そういう意味では、毎年評価をするということも必要で、それが 93 ページにはしっかり毎年事業をやったら評価をして、改善につなげますということがありますし、それがここで議論されたと思うので、この流れをしっかりと進めていただければと思います。

(議長)

ありがとうございました。何か事務局からありましたらお願いします。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。おっしゃられたように、今本当に技術がどんどん進歩している状況については、我々もできるだけキャッチしていきたいと思っていますし、現在コミュニティバスの時刻もナビタイムで検索できるようになっています。こういったものの周知ですとか、もしくは路線を変更する、昨年度社会実験を行って、今年度から運行を開始しました菱野団地の住民バスについては、地元の皆様のご協力もありまして日に日に利用者数が伸びているといった経験もございます。こういったものも参考にしながらやっていきたいと思っています。

評価につきましても、受益と負担のあり方というのは非常に重要なところだと私どもも思っています。皆様のご意見を頂戴しながら進めていきたいと考えています。

(議長)

他に委員の皆様から何かご発言がございましたらいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

私から 1 点、60 ページで、横にずっと将来の年度が書いてありますが、実は 2022 年というのは少し話題の年ですよね。何かと言うと、団塊の世代の方が 75 歳に突入するという年です。今日の資料でコミュニティバスの利用状況もありますが、少し前の高齢の方というのは、男性は車の運転免許を持っていますが、女性の方はお持ちでない、そういう世代がありました。ですので、コミュニティバスもどちらかという高齢の女性がたくさん乗っていらっしまったというような傾向なんですね。でもちょっと年代が下がりますと車の運転免許保有というのはあまり男女の差がなくなってきました。ということは、そうすると女性の方も車に長く乗り続けるということですから、まだまだコミュニティバスの必要性を感じていない方がみえます。今、一般的にいろいろなことが言われていますが、65 歳ではなくて 75 歳ぐらいになるとそろそろ運転能力を確認してくださいという年になってきますので、そのときに判断できるようなもの、そういうのが必要なのかなと思います。ですから、2022 年になる前からその辺のことを考え

ていただいて、公共交通をあまり使ってこなかった人たちが判断できるような仕掛けがあると変わっていくかなと思います。2022 年はそういう大事な年かなと思いますので、それも意識して、先ほどの PR とかいろんなことをやっていただければと思っております。

他はいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、これは特に議決を必要としないので、皆さんのご意見をまとめてパブリックコメントを実施していきたいと思っております。

- (2) 平成 31 年度瀬戸市地域公共交通会議スケジュールについて
別紙資料 2 に従って事務局から説明

(質疑応答)

(議長)

ただいま新しい年度におけるスケジュール、特に各関係団体の話も交えてございました。何かこれについてご意見、ご質問等がございましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。こうやって地域公共交通会議をやっていきますが、各地域の会合の動向もいろいろと気にしながらやっていくということですので、よろしく願いいたします。

- (3) 協議事項
平成 31 年度瀬戸市地域公共交通会議予算（案）について
別紙資料 3 に従って事務局から説明

(質疑応答)

(議事)

この地域公共交通会議というのが一旦お金を預かって、それでしかるべきところにお金を出している、そういう性格のものでございますので、予算のことを決めて時期が来たらまた決算する、そういう形になります。特に金額が大きいのが市内基幹バス運行関係で、実際には名鉄バスさんが運行していますが、それに支援しているということで、一旦この会議がお金を市から預かって、それでしかるべき支出をしています。一方、コミュニティバスは市が直接やっていますので、この会議の予算の外になる、そういった関係になっています。今回はこの会議の予算の中のことになりますので、よろしく願いいたします。

何かご意見、ご質問がございましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。

前年度とそう変わることなくやっている、それが一番大きなところですよ。

(副議長)

今、公共交通はすごくお金がかかるようになっています。バスの事業をやられ

る方は苦勞されており、運転手の確保や、運転手さんの賃金も含めて、かなり厳しい中でやられているので、費用自体を下げるというのはなかなか難しいですよ。この費用の中で費用対効果を上げること、つまり費用がかかるとしても、今以上の効果を上げることがこれから大事になるので、それぞれの路線についても、先ほどの乗っていただくためのいろいろな仕掛けを着実にやっていかなければいけないと思います。

(議長)

4月から1年間通してみますと消費税の話が入ってきます。これはどのように予算的に見ているのですか。

(事務局)

消費税の話を議長からいただきましたが、基本的に運賃、コミュニティバスの運賃の変更は現時点としては考えていません。先ほど網形成計画のスケジュールでご説明してもらいましたが、まず陶生病院に乗り入れた後に利用者数、または収支率、こういったところを見ながら、適正な運賃を見直していきたいというご説明をしましたので、今年の運賃の変更は現時点では予定しておりません。

(議長)

というよりも、消費税が上がると経費もその分上がるかなという、単純な話ですが、その辺の見積もりはいかがでしょうか。

(事務局)

一旦は今年度の当初予算ではこの金額を計上してしまっていて、ここで努力しているところなんです。2%分は頑張らなければいけないということになるのですが、実際は、平成29年度はこの予算どおりでやっていくことができたのですが、今年度は石川委員にご指摘いただいたとおり、経費が少し多くなっています、3月補正で対応しているところになりますので、こういった対応も今後考えていかなければいけないところかなと考えています。

(議長)

わかりました。状況に応じて考えていくと。追加のこともあり得るという話ですね。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

議事3につきましては、議決が必要ですのでよろしく願いいたします。

それでは採決させていただきます。平成31年度瀬戸市地域公共交通会議予算案につきまして、原案どおり賛成の方の挙手を求めます。賛成の方は手を挙げてください。

採決 <全会一致で承認>

(議長)

ありがとうございます。全員賛成ということを確認させていただきましたの

で、平成 31 年度瀬戸市地域公共交通会議予算の案につきましては原案どおり可とすることに決しました。

3 その他

(1) 地域住民が主体となって運行するバスの運営団体との意見交換会の開催結果について

別紙資料 4 に従って事務局から説明

(質疑応答)

(議長)

今意見交換会の模様をご紹介いただきましたが、これについて何かご質問等がございましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局)

先日瀬戸市様のご協力をいただきまして、沿線の住民団体の方、また伊豆原先生、磯部先生のご協力をいただきまして大変ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

この取り組み、この意見交換会は、もとはと言えば、現在いろいろな市町のほうで地域の公共交通を構築するに当たって、当然利用されている地域の方々がある程度主体性、もしくは意見を積極的に出している、バスの路線を決めていただくことによって、より利用していただけるコミュニティ交通を構築するという取り組みを行っておりまして、それが良いだろうということいろいろなことをやっただけのようですが、なかなかうまくいっていない状況があります。そもそも団体を立ち上げることができない、もしくは団体を立ち上げたとしても、キーパーソンの方がいて団体を立ち上げいろいろ引っ張って積極的にやっただけのようなどころもあるのですが、過去立ち上げたときは皆様若くて非常にやる気があったのですが、お年を召されて、どうしても頑張れなくなってきているといった中で、なかなか後継者が現れてくれないという悩みを持っていらっしゃる場所がありまして、いくつかの団体では自然消滅的になくなってしまおうというようなこともあるということを聞いています。

その中で、瀬戸市様の各協議会、団体は、うまくやっただけのようということ、その辺のノウハウについて一度お聞きしようということで今回開催させていただいています。有識者の方、伊豆原先生という方は中部運輸局の地域公共交通マネージャーという制度がありまして、そちらの先生でいらっしゃいます。磯部先生も地域公共交通マネージャーとして登録していただいています。また、この地域公共交通会議でも座長として活躍されている。そういう地域公共交通の専門の方の助言を受けつつ、地域の方のいろいろな意見を聞かせていただくということで実施させていただきました。

先ほど事務局から説明をいただいたとおり、瀬戸市だけではなくて、他の市町でも活用していただける知見をいろいろいただきまして、今後これを踏まえて他の市町の方にもアドバイスできるかなと思います。このような取り組みをできるだけ進めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いたします。ありがとうございました。

(議長)

どうもありがとうございます。他に何かこの会合についてのご意見とか、どんなことをやったのかお聞きしたいというのがありましたらお受けいたしますが、いかがですか。

私から感想を述べさせていただきますと、私も参加しましたが、この会議は有意義だったなと思っております。

どうして私にとって有意義だったかという、交通の路線をどうするかという話よりも、まさに運営団体の維持というか、そういうものをどうやって作るかということの話のほうが多かったからです。まさに組織がないと実際にこれはできませんので。それはどこでも共通の悩みごとなので、別に交通だけではなくて、他のコミュニティについても同じなのですが、そこでのいろいろな工夫がなされてきたので、まさにその工夫が他の地域、他の団体にも広がってくると良いなというので、すごく有意義だったなと感じています。

もう1つ申し上げますと、交通のシステムを作り上げるときに、どうしても供給者側、つまりバスとかタクシーとか車を走らせる側の考え方で組んでしまうことが今まで多かったんですね。運転手不足とか、そこまで回ると大変だとかということですが、交通というのは利用者がいての交通なので、利用者が本当にどのように動きたいのかということがわかっていないと本当に良いシステムになりません。まさに利用者のその辺のことを考えている団体という形で、その方たちがどうやってものを言っているかという話ですね。個人個人の意見をまとめて全体としてまとめていくか、それも大事なことだなと思いました。まさにこういう団体がしっかり育てていただいて、車を走らせる側と一緒にって議論しながらやっていくと良いシステムになるなと思いました。ぜひともこれは参考にまた各地域、瀬戸市以外でも広がっていくと良いかなと思っております。

何かございますか。

(副議長)

先ほどこの地域が公共交通でも他の地域に乗り遅れないようにという話をしましたが、実はこういった取り組み自体は瀬戸市は先端地域というか、先端地域です。他の地域では各地域で公共交通を考えてくださいというような協議会を作ってもらいたいとかいろいろあっても、それを作ること自体が大変な地域が全国の市町村でたくさんあります。そんな中でも瀬戸市はこういったいくつもの協議会とか、菱野団地は今すごく有名な先端事例になっているのですが、そういうところをどのようにやっているのだろうかということは多分運輸局も非常に興味があって、他の市町村も関心があるんですね。だから、瀬戸市は先端地域なので、自信を持ってどんどん進めていただければと思います。

(議長)

他に何かありますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、またこういう会合はどこかで工夫してやっていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

(2) 平成 30 年度公共交通に関する要望等について
別紙資料 5 に従って事務局から説明

(質疑応答)

(議長)

要望が正式にあったという形なので、説明していただきました。これは別に無視をするわけではなくて、これを踏まえているいろいろ検討していく、そういうのが事務局側の答弁でございましたが、何かこれについて皆様からご発言がありましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局)

今回こういう要望がありまして、お話を聞く限り、過去から要望があるというお話でしたが、お願いしたいのは、今運転手も非常に厳しくて、休憩時間の関係もあって路線を組むのが非常に難しいというのは承知していますが、このような要望をずっと聞かないでいるとそもそもバスがあてにされなくなってしまうというのが非常に問題になります。最終的にこれは要望がかなえられていったとしても乗っていただけないということが発生しかねないので、その辺は今網形成計画を作りまして、今度ある程度の再編を行うと思いますので、それも含めてやっていただくとともに、こういう局所的な要望に対応するのではなくて、全体を含めて見直していただくという中で、その他の要望の掘り起こしなども含めて今後の計画とそれに基づく再編を行っていただくようお願いいたします。

(議長)

ありがとうございます。今のはコメントでよろしいですね。
何かございますか。

よろしいでしょうか。今声を上げているということは、要するに事務局側としても課題、問題視しているということであることはご了解ください。ですので、あとはどのように解決策をやっていくかということ今模索中ということです。いろいろな方法論があるかと思いますが、先ほど愛知運輸支局がおっしゃったように、全体を見直しながらというのもあるし、部分的な局所的な解決策もあるでしょうということですので、また全国にも似たような事例があると思いますので、いろいろ探しながらやっていくと思います。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、本日の議事は以上となります。その他で委員の皆様から何かご意見、ご発言はありますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

4 閉会

(事務局)

磯部議長、ありがとうございました。委員の皆様におかれましても、お忙しい中、長時間にわたり議論をいただきましてありがとうございます。以上をもちまして、平成 30

	<p>年度第3回瀬戸市地域公共交通会議を終了いたします。</p> <p>なお、今回の会議をもちまして平成30年度に開催を予定しておりました会議は全て終了となります。</p> <p>また、委員の皆様は今年度末の3月31日までということになっています。2年間にわたり、瀬戸市の公共交通に対し多大なるご支援、ご協力、またご意見を頂戴いたしまして誠にありがとうございました。ただしこの委員会が終了するわけではありません。市民委員の方につきましては只今公募を行っているところですが、他の委員の皆様につきましては、引き続きご依頼させていただきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。ありがとうございました。</p>
--	---